男子 常総　女子 伊奈が優勝

県高校総体バドミントン・団体

県高校総体のバドミントン競技は14日、水戸市の県立スポーツセンターで男女の団体戦を行い、男子は常総学院が前人未到の22連覇を達成、女子は伊奈が初優勝を果たした。

決勝で常総学院は宿敵・藤代と対戦。個人ダブルス優勝組との対戦は落としたものの、1―1から、第1、2シングルスを取って試合を決めた。伊奈は、茗溪学園をフルセットの末に、3―2で破った。◇

女子団体を制し、インターハイ初出場を果たした伊奈＝県立スポーツセンター

【男子団体】▽1回戦
日立一 3―0 波崎
下館一 3―1 水戸一
霞ケ浦 3―0 岩瀬
牛久栄進 3―0 鬼怒商
日立工 3―0 つくば国際
下妻一 3―1 那珂
石岡一 3―0 鉾田二
茗溪学園 3―0 茨城高専
竜ケ崎一 3―2 明野
土浦三 3―2 水戸工
竹園 3―0 東洋生久
水海道一 3―2 土浦一
岩瀬日大 3―1 玉造工
伊奈 3―0 勝田
藤代 3―0 下妻二
▽2回戦
常総学院 3―0 日立一
霞ケ浦 3―0 下館一
牛久栄進 3―0 日立工
石岡一 3―1 竜ケ崎一
茗溪学園 3―0 土浦三
竹園 3―0 岩瀬日大
水海道一 3―0 伊奈
藤代 3―2 ▽準々決勝
常総学院 3―0 霞ケ浦
石岡一 3―2 牛久栄進
茗溪学園 3―0 竹園
藤代 3―0 水海道一
▽準決勝
常総学院 3―0 石岡一
藤代 3―2 茗溪学園
▽決勝
常総学院 3―1 藤代
○篠崎・野口 2―0 山本・菊池

【女子団体】▽1回戦
竹園 3―1 古河二
つくば国際 3―2 下妻一
▽2回戦
伊奈 3―0 竹園
守谷 3―2 清真学園
八千代 3―0 古河三
土浦二 3―0 勝田
常総学院 3―1 鬼怒商
藤代 3―1 神栖
三和 3―1 水海道二
鉾田二 3―0 水戸三
石岡一 3―0 波崎柳川
水戸一 3―0 多賀
水戸商 3―0 日立北
下館二 3―2 常磐大
土浦三 3―0 那珂湊二
霞ケ浦 3―2 日立一
牛久栄進 3―1 高萩
茗溪学園 3―0 つくば国際
▽3回戦
伊奈 3―0 守谷
八千代 3―2 土浦二
常総学院 3―1 藤代
鉾田二 3―0 三和
藤井・木村 0―2 福岡・星野
○小林 2―1 廣瀬
○野口 2―0 星野

負傷の仲間を全国の舞台へ

女子団体　伊奈、チーム一丸初優勝

試合の行方は、最終の第3シングルスの結果までもつれた。

女子団体決勝。伊奈が息詰まる接戦を制した。初のインターハイ切符を手にし、コート内に歓喜の輪が広がった。

就任5年目で全国出場を果たした神林正男監督(44)。鈴木幸一コーチ(32)とともに指揮を執り、バドミントン部のない周辺の中学生も教えながら、選手強化を図ってきた。

試合後は、目を潤ませ抱き合う選手たちを見ながら、「昨年の決勝で2―3で敗れた常総学院に勝つためにやってきた。絶対にインターハイに行くんだと、死に物狂いで練習してきた」と、この日までの過程を強調した。

約2カ月前、第1ダブルスの大越麻衣（3年）がアキレスけんを断裂。チームの不安は大きく広がったが、逆に、みんなが「大越のために頑張ろう。（インターハイの舞台となる）コートマットに立たせるんだ」と一致団結できた。

伊奈は、第2ダブルスの上野晶子（同）・大河内皐月（2年）、第1シングルスの弦巻奈々（1年）が取って2―2のまま、第3シングルス戦に突入。再び登場したエースの上野は、「みんなの応援を背に、自分が決めると強い気持ちで相手に立ち向かえた」と振り返ったように、ストレート勝ちして、栄冠に大きく貢献した。

弦巻は、常総学院との準決勝で、第3セット15―19から連続6ポイントで逆転に成功。前回覇者を破る立役者となり、「練習がきつかった分、試合に負けたくなかった」と話した。

「楽しく、悔いの残らない試合をしたい」と、中村早希主将（3年）は全国に向けて抱負。「コートの中で幸せになれ」。神林監督の言葉を胸に、初舞台に臨む。（高畠和弘）